

令和5年度

**「運営に関する計画
「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」**

大阪市立中大江幼稚園

令和6年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 昨年度は、幼小交流や地域の未就園児との交流を再開することができた。交流の機会を重ねる度に、子ども達が進んで小学生や未就園児に関わる姿が見られた。今年度は、交流を通して、一人一人の子ども達に、育ちつつある力や育てたい力を明確にして、実践に取り組んだり、子ども達の育ちを保護者や地域に発信したりしていきたい。そのためにも、併設小学校の教職員との交流に努め、幼児・児童の育ち合い、学び合いにつなげていきたい。また、園内の異年齢交流の更なる充実と、コミュニケーションの基本ともいえる「あいさつ」の大切さや心地よさを家庭にも啓発し充実させていきたい。
- 昨年度、「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」というアンケート項目について、高い肯定的回答を得られた。しかし、子どもの実態として、転倒での怪我が多くあった。幼稚園の生活や遊びの中で、多様な動きを意図的に取り入れ、体力の向上を目指し運動能力の基礎を育んでいきたい。また、家庭との連携の工夫に取り組みたい。
- 今後も、安心・安全な保育活動を継続していくために、手洗い・うがいの習慣の定着を確実に行いたい。また、基本的な生活習慣の自立は、子どもの心身の成長や、自信につながることを保護者と共に理解し、幼稚園での取組の発信方法を工夫し、家庭との連携の充実を図っていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」
 - ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して、思いやりの心を育てていますか」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし、主体的に遊んでいますか」
 - ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」
 - ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
- ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。
- ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」
 - ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して、思いやりの心を育てていますか」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。
- ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし、主体的に遊んでいますか」
 - ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」
 - ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。
- ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度掲げた年度目標については、保護者アンケートの肯定的な回答の結果などから、総合的に達成することができた。来年度は、更なる保育の充実に努め、保護者アンケートの「そう思う」の回答数の充実を図りたい。

幼小交流や未就園児との交流を重ねる毎に、子ども達が身近な人とかかわる楽しさを感じ積極的に活動に参加している姿がみられた。また、あいさつウィークを通して地域の方に進んであいさつをする態度が育ってきた。今年度から異年齢チームでの保育に取り組んだことで、様々な友達や教師と関わる機会も増えた。これらのこと活かして、来年度も人とかかわる楽しさを感じられる保育の充実を図りたい。

園庭・遊戯室・小学校校庭、小学校ピロティーでの保育活動を積極的に行ったことで、子ども達は広い場で運動的な遊びに意欲的に取り組むようになってきた。あるこうデーは啓発ポスターを作成したことで、子どもも保護者も少しづつ意識が高まった。引き続き、家庭と連携しながら取り組みの充実を図りたい。

基本的な生活習慣の自立については引き続き家庭との連携が必要であるが、幼稚園での取り組みを発信したことで、手洗い・うがいを家庭でも進んで行う態度が育った。

大阪市立中大江幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。 ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」 ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して思いやりの心を育てていますか」	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 一人一人の子どもが、安心して幼稚園で過ごす環境の工夫をする。	
指標 • 一人一人の実態を把握し、日案や週案に活かす。 • 安全指導や避難訓練を、年10回以上実施する。 • 園内委員会を、学期に1回以上実施する。	B
取組内容②【2 豊かな心の育成】 様々な交流活動を工夫し、身近な人への親しみを深める。	
指標 • 幼小交流活動を、学期に1回行う。 • 異年齢活動を、月1回以上行う。 • 地域交流活動を、年5回行う。 • あいさつウィークを、年8回行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、Aよくあてはまるが89%、Bだいたいあてはまるが11%であった。 巡回指導で子ども一人一人の実態に応じた支援の在り方を学び、個別の支援計画・指導計画の作成や、日々の日案・週案に活かした。 中央区役所や東警察署の安全指導を3回（4月園児交通安全指導、7月園児防犯指導、7月職員研修防犯指導）と、様々な想定の避難訓練を計9回実施したこと、安全に関する意識が高まった。 年長児が生活の中での安全ポスターを作成したことで、年中児、年少児にも園生活での安全の意識が高まった。 園内委員会を8回行い、個々に応じた支援方法や幼児理解・保護者理解に努め、教職員間で共有することができ、園全体で支援する体制ができた。
<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、Aよくあてはまるが71%、Bだいたいあてはまる27%、Cあまりあてはまらないが2%であった。 幼小交流の年間計画に基づき、小学校との交流活動を学期に1回以上、計8回（2年生と校内探険、4年生による絵本読み聞かせ、幼小合同避難訓練、6年生と小学校150周年をお祝いする交流、1年生との作品展見学交流、5年生との凧揚げ、3年生との音楽交流、1年生の給食参観・授業参観）を行い、小学生への親しみや憧れをもつ機会となった。 異年齢活動を月1回以上行った。1学期は年長児が年少児の身支度の手伝い、園外散歩や園

- 外保育でペアを組んで歩いたり、行事で年少児の隣に座ったりなど、日常の保育で無理なく関わりをもつことを大切にした。2学期は異年齢チームで玉入れ遊びや小学校の創立150周年お祝いケーキの製作等、3学期は異年齢チームで昼食を食べる等を通して、年少児、年中児は優しくしてもらう嬉しさを味わい、年長児は思いやりの気持ちが育まれ、年長児としての自覚をもつことに繋がった
- ・地域交流活動を年7回（中央区役所・大阪城公園事務所・地域ボランティアとの種花事業や育てた花苗を中大江公園愛護会へ贈る活動、東警察署の安全指導・防犯指導、島之内図書館のボランティアによる絵本の読み聞かせ、地域防災訓練見学）行い、地域の方との繋がりを感じられたり、関わりを楽しみ身近に感じたりすることができた。
 - ・5月から月に1回、計9回あいさつウィークを行った。年長児が当番活動で門に立ち、「大きな声」「優しい声」「よい姿勢」などを目標にしてあいさつをし、友達やお家の方、地域の方とあいさつによって心が通う嬉しさを味わうことができた。また、11月から年中児と一緒に当番活動をした。年長児は年中児の当番用たすきをつくり、手本となつたこと、また年中児は年長児とあいさつ当番をしたことで、自信をもつてあいさつをする態度につながつた。

次年度への改善点

①

- ・次年度も関係諸機関と連携を行い、個別の支援計画・指導計画を作成して保育に活かす。
- ・引き続き、安全指導や避難訓練を計画的に行い、子ども達一人一人の安全に対する意識を高める。
- ・園内委員会を、個別最適な支援の仕方や保護者との連携に活かし、子ども達一人一人が安心して園生活を過ごせるようにする。

②

- ・打合せや反省会を計画的に行いながら、小学校の教職員と連携をとり、実態に応じた幼小交流を行う。
- ・今後も異年齢活動の工夫を行い、保育の充実を図る。
- ・引き続き、あいさつを通して心が通う嬉しさを感じ、身近な人への親しみを感じられるように工夫する。

大阪市立中大江幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。 ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし主体的に遊んでいますか」 ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」 ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 就学前教育カリキュラムに基づき、一人一人が主体的に遊びを楽しむ環境構成や援助の工夫をする。	B
指標 • 各クラスの保育実践検討会を、学期に1回以上行う。 • 子どもの育ちを保護者や地域へ発信し共有する。	
取組内容②【4 健やかな体の育成】 遊びを通して、体を動かす楽しさを味わえるような活動を工夫する。	B
指標 • 環境の見直しを、学期に1回以上行う。 • あるこうウィークを、学期に1回以上行う。	
取組内容③【4 健やかな体の育成】 就学前教育カリキュラムに基づき、手洗い・うがいが身につく指導の工夫を行う。	B
指標 • 手洗い・うがいに関する保健指導を、学期に1回行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① • 保護者アンケートにおいて、Aよくあてはまるが71%、Bだいたいあてはまるが26%あまりあてはまらない2%であった • 実践記録検討会（3回以上）、就学前教育カリキュラムの研修会参加（3回）、園内研修（6回）などを通じて、子どもの興味や関心に応じた保育展開について学び合い、保育実践につなげることができた。 • 毎月クラスだよりを作成し保護者に配付したことや、学期末に子どもの育ちの姿をパワーポイントで保護者に発信することで、教師自身の保育の振り返りや充実につながった。
② • 保護者アンケートにおいて、Aよくあてはまるが81%、Bだいたいあてはまるが19%であった。 • 1学期は水遊びやプール遊びミストの設置など、季節に合った遊びの環境を整えた。2学期は、運動会が刺激となり他学年の取り組んでいた遊びにも挑戦できる環境を整えた。3学期

- は、ボール・縄遊び・マラソンなど全身を動かす遊びの環境を整えた。また、他園の研究保育で学んだことを活かし、実践したり遊びを工夫したりすることで、様々な体の動きを遊びの中で経験することができた。
- ・室内で体を動かして遊べる遊具（エス棒やラバーフープ）を購入したり、ゴム跳びやボール投げ等の手作り運動遊具をつくったりしたこと、雨天時や猛暑の際にも室内で体を動かして遊ぶことができた。また、体操の年間計画を作成し取り組んだり、律動を保育の中に積極的に取り入れたりすることで、音やリズムに合わせて体を動かす楽しさを感じる姿が見られるようになった。
 - ・あるこうウイークは、1学期3回、2学期4回、3学期2回の年9回行った。また、あるこうウイークのポスターを園内に掲示して子どもに知らせたり、園だよりにあるこうウイークの期間を示して保護者への啓発を行ったりすることで、徒歩登園の意識が高まった。

③

- ・保護者アンケートにおいてAよくあてはまるが69%、Bだいたいあてはまる31%であった。
- ・手洗い・うがいに関する保健指導は学期に1回、計3回実施した。
- ・5月は、なぜ手洗い・うがいをするのかと、正しいうがいと手洗いの方法を知らせた。指導後は、正しいうがいの方法や正しい手の洗い方を手洗い場に掲示した。掲示を見ながら丁寧に手を洗ったり、うがいをしたりする姿が見られるようになった。
- ・12月は手洗いに重点を置き、保健指導を行った。水で濡らしたカット綿で手を拭くという手洗い実験を行い幼児も参加できるように工夫をした。手洗いが十分にできていれば、カット綿は白いままで、不十分であればカット綿は黒くなるという実験である。外遊びの後に実験を行ったので、幼児が自分の手洗いを振り返るきっかけとなり、幼児は自分のカット綿を見ながら真剣な表情で取り組んでいた。
- ・1月はうがいに重点を置き、保健指導を行った。うがいの大切さやうがいをする時にしっかりと上を向くことができるよううがい人形を用いて指導を行った。うがいをすると（ホースに息を吹き込むと）菌やウイルスに見立てたビーズが出てくる仕組みである。上を向かずにはうがいをする時としっかりと上を向いてする時の両方を見せたことで、「（上を向いた方が）ぱいきんがいっぱい出てきたよ」との声が聞かれ、うがいの大切さを理解できている様子がうかがえた。
- ・保健指導の内容は保健だよりや降園連絡、ホームページを活用して保護者に啓発した。家庭でも継続して手洗いができるように、冬休みに手洗いカレンダーを発行した。また、保健室前に掲示物を掲示した。幼児が興味や関心をもてるようクイズ形式を取り入れたことで、降園時などに保護者と一緒に参加している姿が見られた。

次年度への改善点

①

- ・子どもの育ちを共通理解し、互いの保育実践から学び合う時間を確保する。
- ・就学前教育カリキュラムについての研修会に積極的に参加し、学びを共有し合い保育の充実を図る。
- ・保育内容の発信方法の工夫として、ホームページを有効活用する。

②

- ・遊戯室を有効活用できるよう、保育内容を工夫する。
- ・あるこうウイークをより意識できるように、子どもたちが作成したポスターを掲示する。

③

- ・指導後すぐは丁寧に手洗い・うがいをしている様子が見られるが、時間が経つと水だけで終えようとする姿などが見られる。担任と連携しながら引き続き見守りや指導の工夫を行っていく。

大阪市立中大江幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。 ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 保育の振り返りや園内研修を計画的に行い、教職員の学び合いに努める。 <hr/> 指標 ・共通週案を作成し打ち合わせを、週1回行う。 ・園内研修を、年3回以上行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① • 保護者アンケートにおいて、Aよくあてはまるが79%、Bだいたいあてはまるが21%であった。 • 諸行事の振り返りはその都度行うことができた。週案は多様な勤務形態や、出張などで教職員がそろって打ち合わせを行う時間の確保が難しいため、曜日や時間を決めて職員間で共有した。 • 園内研修を計6回行い、保育力の向上に努めた。

次年度への改善点
① • 引き続き、曜日や時間を決め計画的に教職員が週案や保育の流れを共有できるように努める。 • 年度当初に、園内研修の年間計画を立案し、教職員の資質向上に努める。

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市立中大江校園 学校協議会

1 総括についての評価

- ・小学校・幼稚園共に、現状や課題から設定した目標に向けて、教育活動の工夫や、教員の指導力の向上に努めていることが理解できた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

小学校

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。
- 不登校について、担任だけでなく、多くの教職員が関わっていくことが必要である。また、教室に入りにくい児童に対してもオンラインなどを利用して、安心して過ごすことができる場所を設けていく必要ではないか。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。

- 読書の習慣が身についている児童が多いので、引き続き読書タイムや「スマイル」活動と連動して読書を促す環境を創っていきたい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和5年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。
 - ・ゆとりの日を月に1回以上設定し、職員の超過勤務時間を前年度より減少させる。
- 児童用の端末の故障があとを絶たない。「借り受けている物」という意識が薄いのではないかと感じる。
 - 教職員の時間外勤務を減らすため、令和6年度より、最終下校時刻を通年で16時までとすることとする。

幼稚園

【安全・安心な教育の推進】

- 令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。
- ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」
 - ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して、思いやりの心を育てていますか」
- 達成状況の評価に関しては妥当である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。
- ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし、主体的に遊んでいますか」
 - ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」
 - ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」
- 達成状況の評価に関しては妥当である。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和5年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を75%以上にする。
- ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」
- 達成状況の評価に関しては妥当である。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 子ども一人一人の課題や家庭環境が多様化している。家庭・学校・地域・関係諸機関で連携して温かく見守り支えていくことが大切であると再確認した。
- 子ども一人一人をていねいに支援していくためにも、中大江校園教職員の資質向上の取り組みを評価している。
- 教職員・児童が活用しやすいICT教育環境の充実や改善が、大阪市及び区の取り組みとして望まれる。